

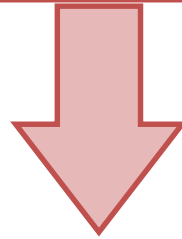
東京都立八王子特別支援学校
平成29年度 全国公開研究会

研究概要

「一人一人のことばの力を高める授業づくり」
～知的障害特別支援学校における
主体的・対話的で深い学びとは～

研究テーマにおける「ことば」とは

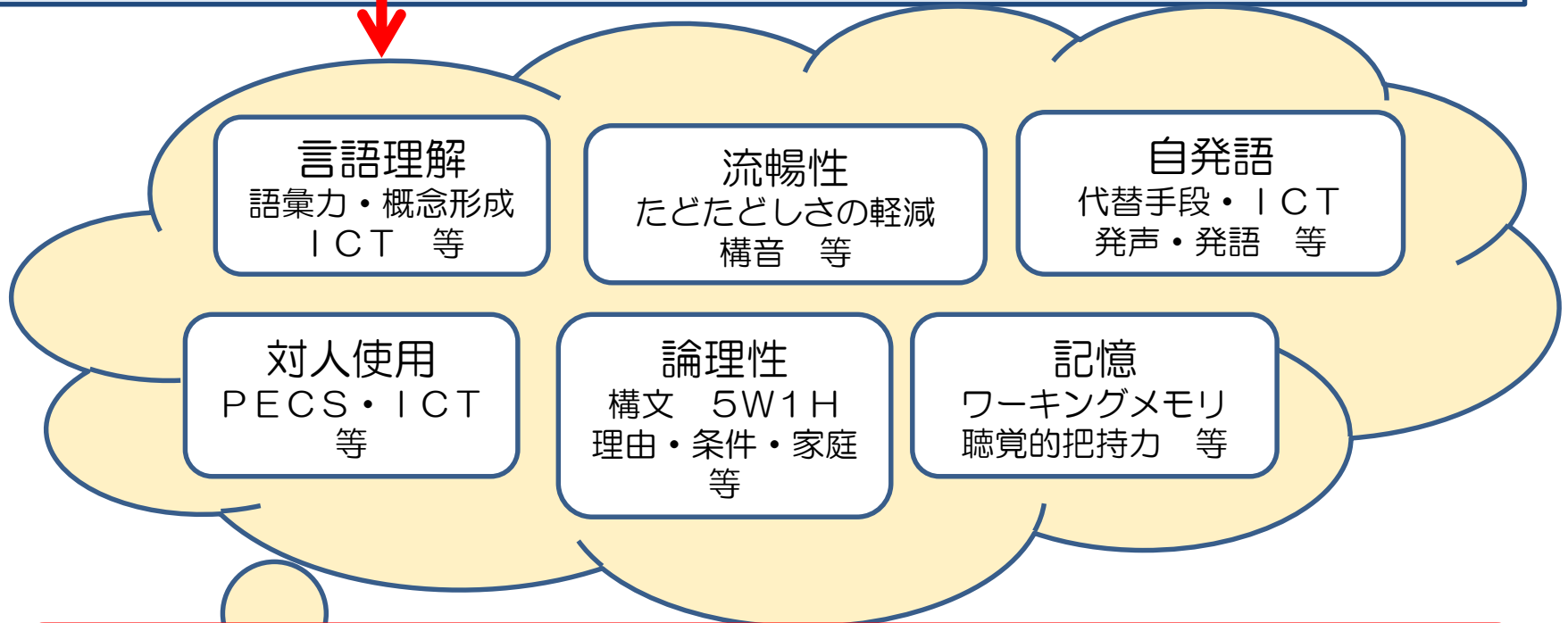
音声、非音声に限らず、絵や写真などの視覚的な情報手段やクレーンなどの具体的な行動など、一方では、思考・判断のために頭の中で処理している言語的な内容も含んだ、広い意味で捉えています。



全ての児童・生徒にとって、
伸ばしたい「ことばの力」があるはずです。

昨年度までの研究から①

児童・生徒の実態を把握し、課題である特定の言語機能や学習内容に**焦点化**して研究を行った。



これらの力が足りないと、ある場面で、あるつまずきがあって、思考できないか、判断できないか、表現できないかに陥ってしまう。

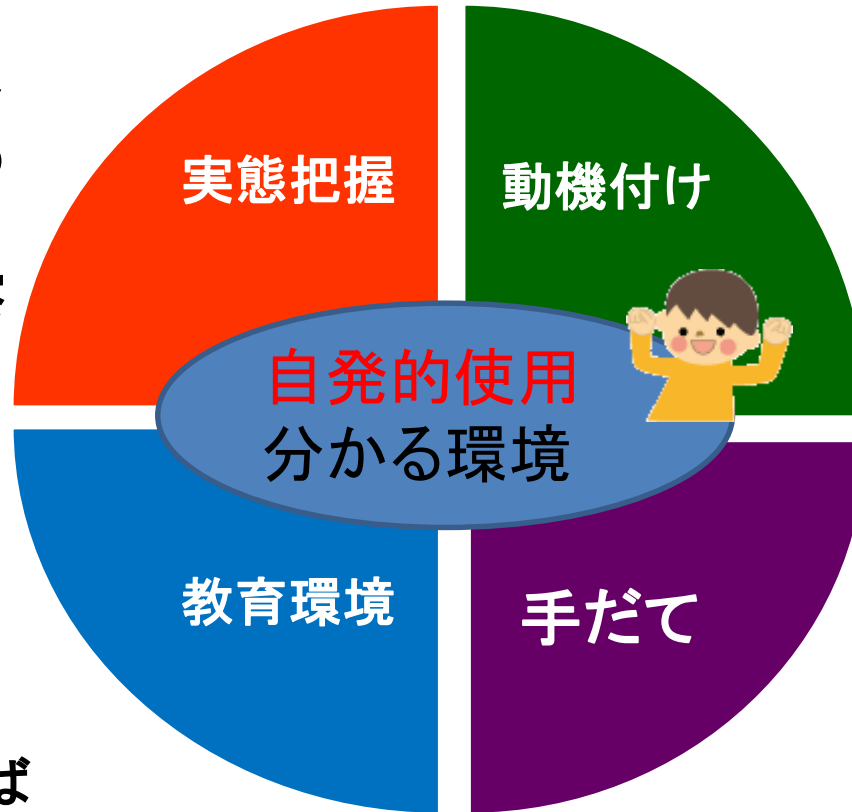
昨年度までの研究から②

これまでの研究から整理した、本校の指導のベース

分かる授業がことばを引出す

- アセスメント
- 障害特性の理解
- 日々の観察

- 構造化
- 刺激の軽減
- 動線の工夫
- 学習形態
- ICT活用
- 教師のことば



- 教師のことば
- 好子の選定
- 即時評価

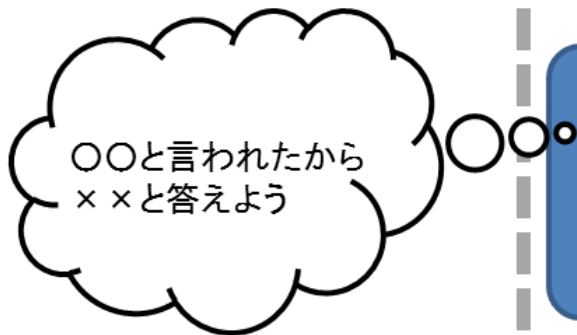
- スケジュール
- 手順書
- コミュニケーションブック

思考力・判断力・表現力

“分かって”動くから“考えて”動くへ

「ことば」を活用して、児童・生徒が「思考・判断・表現」できる授業を実践する

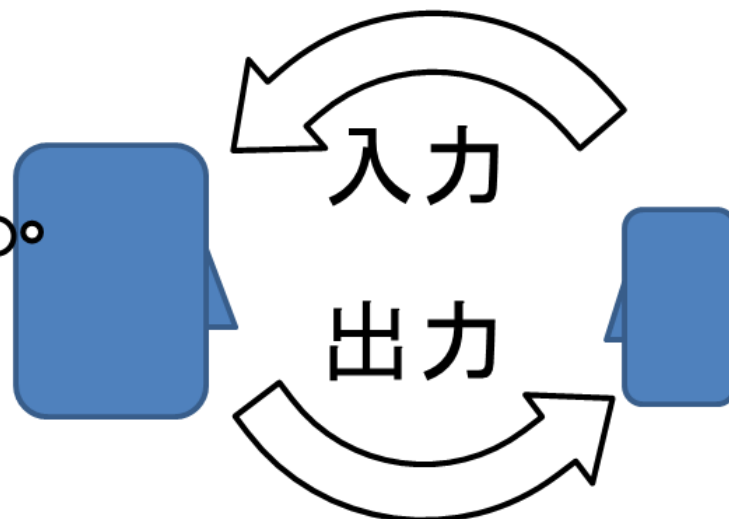
各教科の目標を達成させる思考



- 考えさせるには...
- ・発問はどうあるべきか
 - ・教材はどうするか など

【今年度までの研究】

- ・アセスメントに基づいた配慮
- ・教材の提示 など



- ・コミュニケーションツール
- ・音声言語
- ・身体表現 など

【昨年度までの研究】

知的障害特別支援学校における 主体的・対話的で深い学び として発信

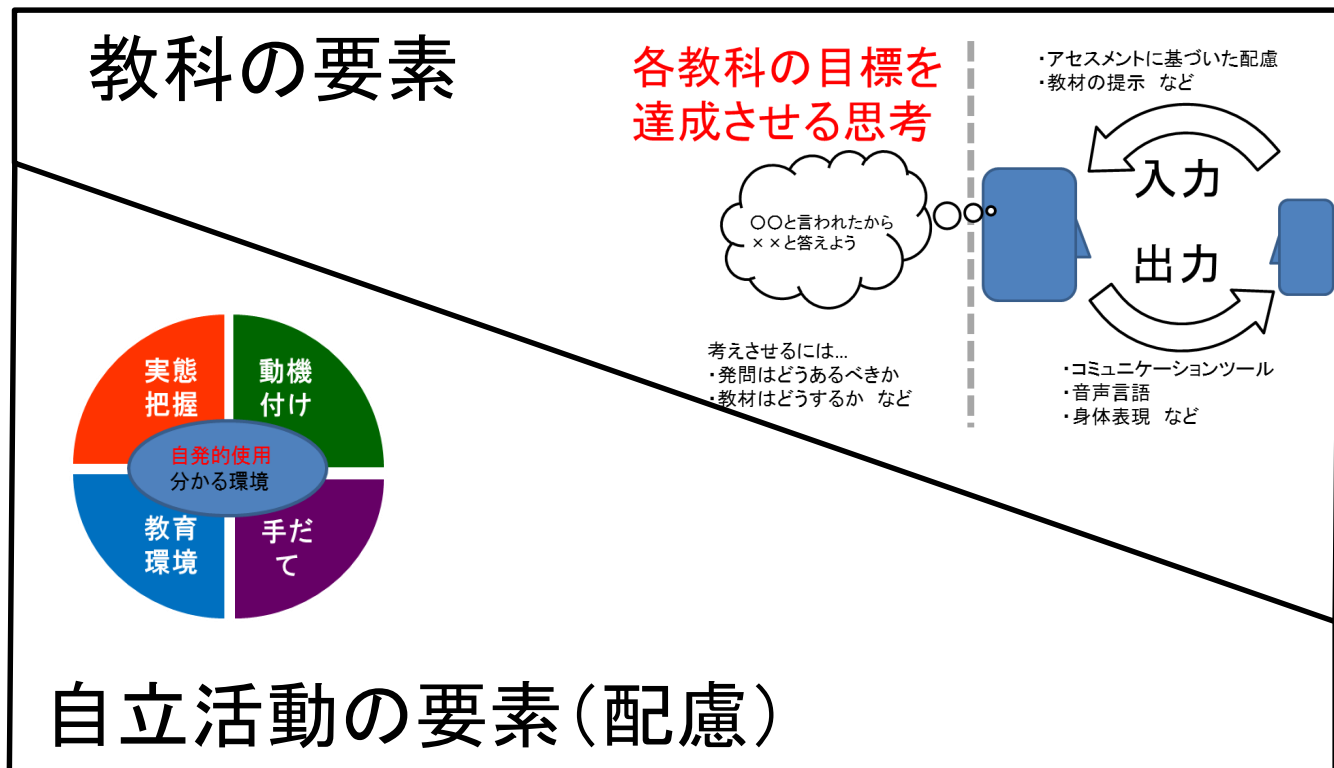


このような授業のデザインを

教科指導の充実を図ることが目標



これらを通して



これまでの研究活動を踏まえ、次のステップへ

昨年度までの研究活動を、児童・生徒への関わりの基礎ととらえる。
(STEP1)

その上で、授業における指導技術の向上を、児童・生徒の「思考・判断・表現」に焦点を当てて研究する。(STEP2)

更に、各教科ごとにおける、特徴的な指導方法、指導技術についても研究を進める。(STEP3)

STEP3 教科ごとの専門性・指導技術

STEP2 授業づくりとしての専門性・指導技術

STEP1 関わり方としての専門性・指導技術

研修計画

実施月	内容	講師
4月	新転任者向け研修	校内
6月	配慮が必要な人への支援～支援としての対話法～	宇部フロンティア大学 小栗 正幸 氏
7月	神経心理学講座①	早稲田大学 坂爪 一幸 氏
7月	研究中間発表会	校内
7月	教材教具発表会	校内
8月	性非行への介入と支援	関東医療少年院 遠藤 季哉 氏
8月	特別支援教育のアクティブ・ラーニングについて	東京学芸大学 菅野 敦 氏
8月	神経心理学講座②	早稲田大学 坂爪 一幸 氏
9月	子どもの教育に有効な言語技術教育	つくば言語技術教育研究所 三森 ゆりか 氏
1月	新学習指導要領とこれからの特別支援教育	文部科学省視学官 丹野 哲也 氏
2月	本年度の研究の成果と課題	たすく(株) 齋藤 宇開 氏

組織体制

研究推進プロジェクト

- ・担任部や分掌部を問わず編成
- ・研究や研修の方向性

教材作成事務支援部

- ・教材・教具作成のアドバイス など

OJT研究研修部

- ・研究の下支えとなる研修の講師派遣依頼
- ・公開研究会準備 など

教科A

教科B

グループ研究
推進委員

グループ研究
推進委員

グループ研究
推進委員

研究グループ

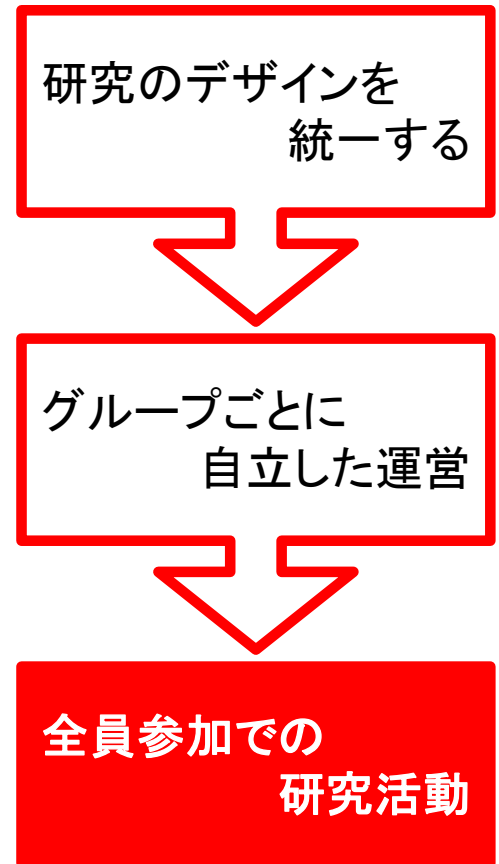
研究グループ

研究グループ

- ・全員がいずれかの教科グループに所属
- ・教科によっては、その中をさらに複数のグループに

組織内での役割

- プロジェクトチームでお膳立て
 - 協議会の進め方の提示
 - 研究紀要の執筆方法
- グループ研究推進委員の役割
 - グループ研究の進行管理
 - グループ研の協議会の進行
 - 中間発表会・公開研究会等での発表
- グループメンバーで行うこと
 - 研究授業対象者の選出
 - チェック表を活用した授業評価
 - 指導方法や教材のアイデアを出し合う
 - 研究紀要の執筆



研究グループ編成と研究スケジュール

- ◆ 受け持つ授業や希望などを踏まえ、5～10人の規模による、教科・領域別のグループを編成した。

国語(1～8) 算数・数学 理科 社会 英語
情報 職業 家庭 作業学習(1～3)
音楽 図工・美術 体育 社会性の学習

計 22グループ

- ◆ 協議会シートを軸に研究グループで協議を行います。
1学期(6～7月)をⅠ期 2学期(9月～11月)をⅡ期
各グループ計2つの授業を研究授業として取り上げます。

各期ごとの研究の流れ

研究授業 (タブレット端末等で授業の様子を取る)



事後協議1 (ビデオによる観察)



事後協議2 (ねらいが達成できたか検証・改善)

達成できた→検証 達成できなかった→改善



検証・改善授業 (事後協議を踏まえての参観)



検証・改善協議 (事後協議で立てた視点の検証)

各期ごとの研究の流れ(フローチャート)

研究授業 (タブレット端末で授業の様子を録画)

事後協議1 (ビデオによる観察)

事後協議2 (目標が達成できたかを協議)

目標が達成できたと思われる

検証授業

(事後協議を踏まえての参観)

検証協議

(事後協議で立てた視点の検証)

目標が達成できなかったと思われる

改善授業

(事後協議を踏まえての参観)

改善協議

(事後協議で立てた視点の検証)

これまでの研究活動で培ってきたものの維持

都立八王子特別支援学校 平成27年度 児童・生徒実態表				
授業者	八王子 特子	所属研究グループ		対象児童・生徒
日時	6月20日	場所	1年1組	イニシャルで
対象児童・生徒の実態				
チェックをつける 複数可				
コミュニケーションの手段				
<input type="checkbox"/> 動作 <input type="checkbox"/> 発声 <input type="checkbox"/> サイン <input type="checkbox"/> 絵カード・写真カード <input type="checkbox"/> コミュニケーションブック <input type="checkbox"/> 音声言語				
言語機能アセスメント リストから選択				
項目		<p>言語機能アセスメント</p> <p>①構音の明瞭さ ②流暢性 ③自発語の長さ ④自発語の内容 ⑤発話の運用 ⑥復唱の長さ ⑦聴覚的把持力 ⑧理解水準</p>		
①構音の明瞭さ				
②流暢性				
③自発語の長さ				
④自発語の内容				
⑤発話の運用				
⑥復唱の長さ				
⑦聴覚的把持力				
⑧理解水準				
J☆sKep 数値を入力		<p>J☆sKep</p> <p>①学習態勢 ②指示理解 ③セルフマネージメント ④強化システム ⑤表出性コミュニケーション ⑥模倣 ⑦注視物の選択</p>		
項目				
①学習態勢				
②指示理解				
③セルフマネージメント				
④強化システム				
⑤表出性コミュニケーション				
⑥模倣				
⑦注視物の選択				
平均				
必ずALT+Enterで改行してください				
アセスメントから導き出される対象児童・生徒の状態像を基にした配慮や課題				

研究授業指導案に、アセスメント結果を入力

わかる授業のための4つのベースチェック表

J☆sKep3点以下は、すべてにチェックがつかうことが必要です
J☆sKep3点以上は、授業によっては黄色い部分のチェックはつかない場合があります。

	事前チェック	項目
実態把握	<input type="checkbox"/>	J☆sKepを取った
	<input type="checkbox"/>	言語機能アセスメントを取った
	<input type="checkbox"/>	行動観察を行った
教育環境	<input type="checkbox"/>	一目でわかるような動線、位置等の構造化を行った
	<input type="checkbox"/>	視覚的な情報を用意した(絵、写真、カード等)
	<input type="checkbox"/>	ことばの量、音量に配慮する
	<input type="checkbox"/>	聴覚的把持力に見合った言葉の使い方に気をつける
	<input type="checkbox"/>	J☆sKepの点数に見合った学習形態を準備した(3点以下は静態的、3点以上は流動的)
	<input type="checkbox"/>	黒板を整理し、刺激を低減し、注目しやすいように準備した
	<input type="checkbox"/>	左から右、上から下のように情報を整理した
	<input type="checkbox"/>	流れを構造化した(ルーティン)
動機付け	<input type="checkbox"/>	センソリースペースを準備した
	<input type="checkbox"/>	興味関心、好子を把握した
	<input type="checkbox"/>	即時評価を行う
手立て	<input type="checkbox"/>	好子を評価に活用する
	<input type="checkbox"/>	個別のスケジュール、手順書を用意した
	<input type="checkbox"/>	本時のスケジュールを用意した
	<input type="checkbox"/>	個に応じたコミュニケーションの手立てを用意した
	<input type="checkbox"/>	リマインダーを準備した

授業をするにあたって大切なことを、チェックリストで確認

チェックリスト(ベースチェック表)を用いた授業づくり

実態把握

- J☆skepを取った
- 言語機能アセスメントを取った
- 行動観察を行った

動機づけ

- 興味・関心、好子を把握した
- 即時評価を行う
- 好子を評価に活用する

チェックリストを用いた授業づくり

教育環境

- 一目でわかるような動線、位置等の構造化を行った
- 視覚的な情報を用意した(絵、写真、カード等)
- ことばの量、音量に配慮する
- 聴覚的把持力に見合った言葉の使い方に気をつける
- J☆sketの点数に見合った学習形態を準備した(3点以下は静態的、3点以上は流動的)
- 黒板を整理し、刺激を低減し、注目しやすいように準備した
- 左から右、上から下のように情報を整理した
- 流れを構造化した(ルーティン)
- センソリースペースを準備した

チェックリストを用いた授業づくり

手だて

- 個別のスケジュール、手順書を用意した
- 本時のスケジュールを用意した
- 個に応じたコミュニケーションの手立てを用意した
- リマインダーを準備した

指導案での焦点化

どうしたら本時の
目標を達成できた
とみなすのか？

本時の目標を達成できたとみなす基
準を指導案に明記する。

本時の目標を達
成させるためにど
のような思考・判
断をさせるのか？

本時の目標を達成するために必要
な児童・生徒の思考・判断を明確化
する。

シートを活用した協議 【事前協議①】

グループ研究【研究協議(1/2)】 1回目の研究協議会前に入力

グループ名 (協議会場)		
対象と指導について	学習グループ	
	指導期間	
	指導場所	
単元について	単元の目標	
	本時の目標	最初の本時の目標
	指導日	
	時間	
	時数	
アセスメント	観察	
	検査	
アセスメントに基づく指導仮説		
本時の展開	学習活動	指導の工夫
本実践の思考	どうしたら本時の目標を達成できたとみなすのか？	最初の評価標準
	本時の目標を達成させるためにどのような思考・判断をさせるのか？	最初の思考判断
ビデオを通じた研究授業の参観		20
付箋の記入(次回の協議会で活用します)		10

- ・1回目の研究協議会前に授業者が入力
- ・本時の目標について確認
→本時の**目標が明確**であるか(評価できるものか)
→教科の**目標としてふさわしい**ものであるか
- ・本時の展開には、本時の目標を達成するための**指導の工夫**について入力
- ・本時の目標を評価する規準(**目標を達成できた**)について協議を明確化
- ・本時の目標を達成するために必要な**思考・判断**について明確化
- ・本時の目標を達成できたかどうかについての意見を**付箋で集約**
- ・1回目の協議内容の結果を2回目のシートにも反映

シートを活用した協議 【事前協議②】

グループ研究【研究協議(2/2)】 2回目の研究協議会後に入力

本時の目標		最初の本時の目標	
本実践の思考	どうしたら本時の目標を達成できたか？	最初の目標達成	
	本時の目標を達成させるためにどのような思考・判断をさせるか？	最初の思考判断をさせるか？	
本時の目標が達成できたかを確認して、どちらか一方について、協議			
↓		↓	
1回目の研究協議会での意見	本時の目標を達成できた	時間	1回目の研究協議会での意見
1回目の研究協議会での意見	本時の目標を達成できなかった	改善のアイデア	時間
何が思考・判断を働かしたか考えられるか	5 10		
目標を達成するために採用するアイデア		5 10	
検証授業をする	新たに別の目標を立てて授業をする	次回は同じ目標で、採用したアイデアで検証授業を行う	
入力が終われば次回は同じ目標で検証授業を行います	新たに立てた本時の目標	新たな目標	
本実践の思考	どうしたら本時の目標を達成できたか？	変更した目標達成	
	本時の目標を達成させるためにどのような思考・判断をさせるか？	変更した思考判断をさせるか？	

・前回の付箋の意見を基に本時の目標を達成できたかを協議

・本時の目標を達成できたかを協議

《本時の目標を達成できた場合》

→なぜ達成できたのかの意見を記述

→どんな思考・判断があったから目標を達成できたのかを検証

《本時の目標を達成できなかった場合》

→どうすれば達成できたのかの改善アイデアの意見を記述

→どんな思考・判断をすれば目標を達成できたのかを改善協議して採用するアイデアを検討

→協議をする中で、新たに別の目標を立てる場合は新たに立てた本時の目標を検討

シートを活用した協議 【検証・改善協議】

グループ研究【検証・改善協議】
検証・改善協議会後に入力

本時の目標			時間
本実践の思考	どうしたら本時の目標を達成できたとみなすのか？		
	本時の目標を達成させるためにどのような思考・判断をさせるのか？		
ビデオを通じた改善授業の参観			10
1回目の研究協議会での意見	本時の目標を達成できた	本時の目標を達成できなかった	10 - 15
本実践でわかったこと			5 - 10

- ・2回目の研究協議であげられた意見や改善のアイデアについて評価

- ・本時の目標を達成できたかを協議

《本時の目標を達成できた場合》

→なぜ達成できたのかの意見を記述

《本時の目標を達成できなかった場合》

→どうすれば達成できたのか、改善案&課題について協議

《本実践でわかったことを協議》

- (1) 本研究の結果(事実)
- (2) 協議や検証してわかった効果
- (3) 今後の課題

論点の整理

円滑な進行

校内の一貫性

校内での共有

8月 中間発表会

I 期の研究を、ポスターセッションの実施により校内で共有

1月 公開研究会

外部に向けて実践を公開
発表対象グループの実践は校内でも共有

2月 校内研究会

II 期の研究の共有と、成果と課題についての整理

成果として

「主体的・対話的で深い学び」

◎児童・生徒が自発的に学習に取り組むようになりました。

自発的に取り組むための環境設定と動機付け

児童・生徒が分かる手だての徹底

授業の流れを一定にする
動線を単純化する
考える手順を示す
答えを書く場所などを明確にする
解答の方法をルール化する など



動機付けを喚起する仕組み

即時評価
トークンエコノミー
ビデオフィードバック等による自己評価
内発的動機づけへの移行 など

児童・生徒が自発的に取り組みたいと思う授業

成果として

「主体的・対話的で深い学び」

◎児童・生徒が持っているコミュニケーション手段と方法で思考を表現できるようになりました。

コミュニケーション手段の確保と言語技術の向上

コミュニケーション手段と活用機会の確保

- ・ コミュニケーションブックを使用して要求を伝える
- ・ コミュニケーションブックを使用して選択した解答を伝える
- ・ 文章カードを並べて構文する など

言語技術の習得と活用

- ・ 一人称を主語にした文章を校正したり意見や感想を発表したりする
- ・ 主張→理由→まとめの文章構成で整った文で説明したり書いたりする
- ・ 5W1Hを意識した作文や発表をする
- ・ 説明の原則に沿って場面を分析して相手に伝える

児童・生徒が必ず「ことば」を使って思考する授業

成果として

「主体的・対話的で深い学び」

◎児童・生徒が授業や場面が変わっても、身に付けた知識やスキルを使って思考・判断・表現できるようになりました。

表現や思考の「型」の習得と他の場面での応用

表現や思考の「型」の習得と応用

- ・ 視覚的ツールで操作して、要求、報告、説明等の「型」を習得する
- ・ 視覚的ツールをリマインダーとして活用しながら、「型」を習得する
- ・ 要求、報告、説明等の「型」を繰り返し活用する中で習得する
- ・ 相手が変わっても、習得した「型」を活用して思考・判断・表現する
- ・ 課題が変わっても、習得した「型」を活用して思考・判断・表現する
- ・ 場面が変わっても、習得した「型」を活用して思考・判断・表現する

自分で分かって動いて「ことば」という思考の手段を活用して
様々な場面で思考・判断・表現する

成果として

「高い成果を上げる研究組織の構築」

◎研究活動を構造化することで、短い時間でも高い成果を上げる研究活動ができるようになりました。

アセスメントに基づいて児童・生徒への配慮を共有

PDCAサイクルを基本とした授業研究

- ・ 大きなPDCAサイクル(一年間)と、小さなPDCAサイクル(Ⅰ期、Ⅱ期)を組み合わせて授業研究を実施する
- ・ 1回の研究授業で「できた」「できなかった」を評価し、改善授業に取り組む

研究のツールをパッケージ化

- ・ 研究授業、研究協議会のフォーマットとツールを全校で共通化する
- ・ 研究活動のまとめを研究紀要とし、そこに向けて研究活動を構造化する

教師が研究協議に専念できる構造化された研究組織と研究活動

成果として 「教師の専門性向上と授業力向上」

◎ 自立活動を土台にして、充実した教科学習への取り組みができるようになりました。

知的障害特別支援学校における教科指導の充実

自立活動の分野の充実と定着

- ・ 知的障害特別支援学校の教科指導には、土台としての自立活動の充実が必要である
- ・ 本校は「ことば」の力を高めることを軸に自立活動の充実を図ってきた

教科指導の充実

- ・ 本校の「4つのベース」としてまとめた自立活動の要素を教科指導に取り入れて授業をデザインする
- ・ 自立活動の充実と定着を経て、教科指導の充実を図る

自立活動を充実させたからこそ取り組める教科指導の充実